

(別記様式)

令和5年度 府立舞鶴支援学校行永分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>教育目標「よく学びより鍛えそしてよりよく挑め」を達成するため、特別支援教育を通して、学習指導要領や学校教育の重点に基づき、指導及び実践に努める。</p> <p>1 特別支援教育の推進</p> <p>(1) 個別の教育支援計画の活用を図り、一人一人のニーズに応じた指導・支援を推進する。</p> <p>(2) 医療・関係機関との連携を図るとともに専門性の向上に努める。</p> <p>(3) 言語活動、コミュニケーション能力の育成及びキャリア教育の充実により、自立と社会参加を目指す。</p> <p>2 学力の充実</p> <p>個別の指導計画に基づき、具体的な指導目標や指導内容を明確化し、基礎・基本を重視する授業の創意工夫に努める。</p> <p>3 心身の育成</p> <p>(1) 心身の状態を的確に把握し、家庭や医療と密接に連携を図り、計画的・効果的な自立活動や教科指導の充実に努める。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣を確立させるとともに、命を大切に作る心、相手を思いやる心等、豊かな人間性を育む心の教育を推進する。</p>	<p>【成果】</p> <p>1 「医療との連携・協働」 隣接する医療機関との連携・協働の下、児童生徒一人一人の教育的ニーズに適切に応える環境づくりを進めた。感染対策を講じながら、地域社会をはじめとする外部の人的資源を活用し、ホームページ等を通じて広報に努めた。</p> <p>2 「交流及び共同学習の一層の推進」 従前の取組に加え、保護者居住地の「居住地」校との交流を進めた。行永分校児童の「学び」の場になったことに加え、訪問先小学校の同学齢児童にとっても、共生社会の一翼を担う市民としての資質を育む一助となった。</p> <p>3 「キャリア教育の推進」 『学校だより』や様々な研修会などを通じて、12年間を見通した情報提供や意識啓発に取り組み、保護者アンケートからも良好な回答を得ることができた。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>1 「医療との連携・協働の下で個に応じた指導の深化」 感染対策を講じながら、児童生徒の実態に応じて、人的資源を有効に活用し、「学びの質」保障に努める。</p> <p>2 「交流及び共同学習の一層の深化」 広い視野から、児童生徒の新たな「学び」の場として「居住地」校を含めた様々な連携を深め、児童生徒の啓発的体験や「気づき」を深化させることに努める。</p> <p>3 「保護者等に信頼される学校づくり」 各々の児童生徒が自らの障害の特性に応じて、その可能性を十分に開花させ、様々な学習場面で頑張る様子をホームページなどに掲載し、保護者のリモート配信等による授業参観などの機会を充実する。</p> <p>4 ICT機器の活用による学習の拡充 ICT機器（タブレット端末、PC等）などを有効に活用し、児童生徒一人一人の教育的ニーズに適切に応える環境づくりを一層進め、児童生徒の最善の「学び」となるように創意工夫を図る。</p> <p>5 実態に応じた適切な教育課程の編成 「個に応じた指導」の充実に向けて、児童生徒にとっての実態に応じた効果的な教育課程の編成に努める。</p>	<p>1 医療機関との連携・協働を通じ適切な感染対策を講じながら、児童生徒の「安心・安全」な学習環境の確保に努める。</p> <p>2 地域などの小学校・中学校との交流も含め、個に応じた「交流及び共同学習」を進める。また、外部の人的資源の有効活用を図る。</p> <p>3 児童生徒の様々な学習場面をホームページに適宜掲載するなど、積極的な情報発信に努め、教育活動の理解の促進を図る。</p> <p>4 ICT機器やデジタルアプリなどのソフトウェアの活用を進め、児童生徒にとっての最善の「学び」となるように創意工夫を図る。</p> <p>5 「個に応じた指導」の一層の深化を図り、児童生徒の実態に応じた適切な教育課程を編成し一人一人を伸ばす「授業づくり」「授業改善」に努める。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織運営	1 児童生徒、保護者、地域から信頼され、地域とつながる学校運営	(1) 各種会議を充実させ、児童生徒の実態把握に努め、適切な学習環境の確保に努める。		
		(2) 分掌間及び教職員間の連携により、児童生徒一人一人を伸ばす環境づくりに努める。		
		(3) 外部の人的資源を有効に活用し、学校行事等の教育活動を充実させ、広報活動の活性化を図る。		
	2 防火・防災教育、健康・安全教育の充実	(1) 防火・防災に関する情報共有及び避難訓練や不審者対応研修等を通して、危機管理意識を高める。		
		(2) 児童生徒の学習環境・生活環境から危険情報を収集し、適切に回避することにより、安心・安全な環境づくりに努める。		
	3 舞鶴こども療育センター、舞鶴医療センター、保護者、前籍校、関係機関等との連携	(1) 医師、看護師等と丁寧な連絡調整を行うとともに、必要に応じて児童相談所や行政機関等との連携を図る。		
(2) 参観日や懇談会、学校行事、PTA 行事の機会を捉え、オンライン機器なども活用しながら関係機関との連携を密にする。				
事務部	1 児童生徒の深い学びを実現可能とする支援	(1) 学校施設の維持管理及び学校環境の整備を行い、学校機能の維持向上に努める。		
		(2) 教材教具の新規購入や更新により、学びが深いものになるように支援する。		

小学部・中学部	1 健康なからだづくりと生命維持力と育成	(1) 関係分掌との連携を深め、安全と健康に留意し、教育活動を進める。			
		(2) 医療機関及び関係機関・団体との連携を密にし、心身の安全を図るよう努める。			
	2 主体的に学ぶ力の育成と個に応じた指導による基礎学力の向上	(1) 創意工夫のある教育課程を編成し、実態に応じた取組や指導を行う。			
		(2) キャリア教育の視点からの実践により、将来を展望する力を育成する。(小学部)			
		(3) キャリア教育の視点からの実践により、希望進路実現に向けた指導を進める。(中学部)			
		(4) ICT機器等を有効に活用し、児童生徒の主体性を引き出す授業づくりを進める。			
	3 他者への思いやりや自らの考えを伝える力の育成	(1) 学級活動を基盤として、こころの育みを大切にし、自他共に思いやる力を育成する。			
		(2) 学校行事や集団活動への積極的な参加を促し、コミュニケーション能力を育成する。			
		(3) 地域等の小学校・中学校との連携を図り、児童生徒の体験を深め、社会性を養う。			
教務部	1 学習指導要領に基づいて、児童生徒の教育的ニーズに応じた教育課程の編成・実施	(1) 各教科等を合わせた指導において、教科の視点を意識した個別の指導計画を作成する。			
		(2) 自立活動担当者や関係機関と連携しながら、アセスメントから個別の指導計画作成までの流れを整理する。			
		(3) 道徳教育の全体計画別葉に基づき、日々の教育活動で道徳教育を推進する。			

	2 学習環境の整備・充実と校務の円滑化	(1) 教室や教材等の整理整頓を行う。			
		(2) 部内の業務内容を整理し、校務の円滑化を図る。			
		(3) 校務システム等、業務の効率化に向けた取り組みを進める。			
生徒指導部	1 基本的な生活習慣の形成・確立	(1) 各学級の実践を基盤にして、友だちや役割を意識した集団活動を進める。			
		(2) 社会的なルールを守り、安全に留意し、よりよい生活を目指す力を育む。			
	2 児童生徒の実態に即した人格形成と仲間づくり及び人権意識の高揚	(1) 両部門の狙いをふまえて、児童生徒の交流を深め、主体的な自治活動を推進するとともに、互いを尊重する心を育む。			
		(2) いじめ、問題行動等の未然防止及び、早期発見に努め、児童生徒の特性等に応じた指導を行い、速やかな対応・解決に努める。			
進路指導部	1 保護者、関係機関等との連携と、組織的・計画的・継続的な進路指導の推進	(1) 卒業後の教育と、生活や保障についての研修を進める。			
		(2) 進路に関する情報の収集と、発信・提供を行う。			
		(3) 小学部から中学部を見通した進路指導の計画の作成に取り組み、系統的に指導を行う。			
	2 進路を主体的に切り開く能力や態度の育成に向けた取組の推進	(1) 保護者、関係機関等との連携を図り、児童生徒の状況と課題を共通理解して日々の支援・指導を行う。			
(2) 個々に応じた進路の実現に向けて、取組を進める。					

保健部	1 元気で楽しい学校生活の推進	(1) 医療との連携を密にし、健康状況や病状を的確に把握する。			
		(2) 基本的な生活習慣を身につける保健指導を進める。			
		(3) 児童生徒が健康に関する基礎的な知識を身につけ、病気を回復改善できる力を育てる。			
	2 健康なこころと身体をつくる取組の推進	(1) 安全な学校生活を送ることができる環境をつくる。			
		(2) 健康安全、医療的ケア等の教職員の研修を進めることにより、児童生徒の健康安全の意識高揚を図る。			
研究部	1 児童生徒の実態や課題に応じた授業を実施するための研究の推進	(1) 学習指導要領の理解を深め、「資質・能力の三つの柱」の視点についての授業研究を行う。			
		(2) 授業実践を共有し、よりよい教育課程について検討する。			
	2 教職員の専門性向上のための研修の推進	(1) 授業改善と専門性の向上のための研修会を行う。			
		(2) 「個別最適な学び」を実現するために、ICTや先端技術を活用した授業実践法を学ぶ。			
情報広報部	1 情報視聴覚機器活用の推進	(1) 情報視聴覚機器および校内LANの保守管理を行い、効率的な利用環境を保つ。			
		(2) ICT機器活用に関する研修の実施やサポートを行い情報視聴覚機器の利用を促進する。			

		(3) セキュリティ対策の啓発を行い、個人情報の保護に努める。				
	2 ホームページからの情報発信の推進	(1) ホームページの保守管理を行い、円滑に運営、閲覧できるようにする。				
		(2) ホームページの作成や更新を適宜行い、内容を充実させる。				

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に向けた改善の 方向性	
-------------------	--